

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回福津市エコショップ推進委員会
開催日時		令和7年1月28日（火）14:00～15:30
開催場所		福津市役所別館2階 会議室3
委員名		（1）出席委員 占部 克明、鈴木 亜希子、木村 真知子、原 修一
所管課職員職氏名		市民共働部うみがめ課 うみがめ課長 芹野 眞里子 うみがめ課主幹 堤田 達也 環境づくり係長 坂本 剛章 環境づくり係 中村 千聖
（ 会 議 ）	議 題 （内 容）	・報告第1号 令和6年度の活動報告について ・その他 令和7年度の活動予定について 今後の方向性について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0人
	資料の名称	・報告第1号 令和6年度活動報告について ・参考資料1 令和6年度エコショップ認定事業所一 覧 ・参考資料2 エコショップホームページ ・参考資料3 エコショップマップについて ・参考資料4 令和6年度エコショップ推進事業報告 書 ・その他 令和7年度活動予定について エコふぁみへの移行について エコふぁみについて エコ事業所について
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
		<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
		<input type="checkbox"/> 要点記録
		記録内容の確認方法 会長による署名・押印
		署名 ㊟

その他の必要事項	吉住委員・長濱委員が欠席
----------	--------------

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会のことば	
2. 資料確認	
3. 会議録の確認	
占部会長	福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第9条第2項の規定により、会議録確認を鈴木副会長に依頼
4. 委員会の成立宣言	委員6名のうち4名出席。エコショップ委員会規則第5条2項の規定により本日の委員会が成立。
5. 傍聴 なし	
6. 審議	
事務局	<p>令和6年度の活動報告について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコショップ認定事業所(R7.1.15現在)⇒70店舗 令和6年度エコショップ更新事業所⇒9店舗 ・広報紙(令和7年2月号)でのエコショップ認定事業に関する記事の掲載 ・公式HPへの事業所取組内容の掲載 ・インターネット上にエコショップマップを作成 認定事業所の場所、取り組み内容などがわかるよう、エコショップHPに掲載 ・全事業所に対し、宗像・糟屋地域事業者向け脱炭素セミナー「脱炭素時代をどう生きるか」を案内 ・ペーパーレス・オンライン化の推進 オンラインでの実績報告・認定申請の呼びかけ
占部会長	<p>質問やご意見はあるか</p> <p>全員なし</p>
事務局	令和7年度の活動予定について説明

	<p>○令和6年度の取組を継続していく</p> <p>① 広報でのエコショップ認定事業に関する記事の掲載</p> <p>② 事業所への情報提供</p> <p>③ ペーパーレス・オンライン化の推進</p> <p>○エコショップのあり方についての検討</p>
占部会長	<p>何か質問や意見はあるか。</p> <p>全員なし</p>
事務局	<p>今後の方向性について（パワーポイントにて説明）</p> <p>○エコふあみの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコふあみ協賛店に登録するメリット ・市民がエコふあみに登録するメリット ・協賛方法 ・エコふあみとエコショップの比較 ・協賛店の登録方法
占部会長	<p>何か質問や意見はあるか。</p>
原委員	<p>エコふあみに移行するとしたら、エコショップもなくなって、会議もなくなるということなのか。</p>
事務局	<p>会議自体もなくなることを想定している。</p>
占部会長	<p>解散の意向はわかったが、市民への周知はどうしていくのか。</p>
事務局	<p>この方向に賛同いただけたら委員会の条例改正を議会にかける必要がある。議会を通ったら、広報やホームページで周知をしていく予定。</p>
占部会長	<p>その前にエコショップの会員に何か周知するのか。</p>
事務局	<p>3月に実績報告の案内をする。その際にどのようなことを検討しているのかをお知らせする。</p> <p>議会にかける前に答申を出すことになるが、その間にも同時並行して事業者伝えていく必要があると考えている。</p>
木村委員	<p>エコショップから移行すること自体には賛成。</p> <p>今の福津市のエコショップの予算は事業者向けのもので、それがエコふあみに移行すると家庭向けのものになるので、それはどうなのか。</p>

事務局	エコふぁみも事業者に宣言してもらって脱炭素の取組をしても らう目的はあるものと考えている。
木村委員	その成果は何ではかるのか。
事務局	事業所登録数などになると思う。
木村委員	報告がないというのがひっかかる。最初に登録するだけで終わ ってしまうのではないか。
事務局	今後もこのような委員会を持つというのも一つの方向ではある し、区域施策編の中に盛り込んでいくという形もあると思う。 移行後も何らかの形で市としての取組は継続していかなくては ならないし、チェックをしていく必要もあると思うので、その 部分をどう組み立てていくかを考えていかなければならない。
原委員	要するに、今までのエコショップ事業がなくなるという感じな のか。
事務局	市単独で行っているものから県レベルに移行して、エコふぁみ のPRに変えていきたいという思いがある。住民も一緒にエコ 活動ができて、メリットもあるというものになり、よりよいの ではと考える。
占部会長	今のエコショップ認定事業所の業種的に、来客が頻繁にあるよ うな所ではない事業所が多い。
事務局	県の制度としてエコ事業所というものがあるので、それについ て今から説明する。 今後の方向性について（パワーポイントにて説明） ○エコ事業所の説明 ・エコ事業所に登録するメリット ・取組内容 ・申込方法
占部会長	業種によってはエコ事業所のほうがいい業種もある。
原委員	県の仕事をとっている所はこっちの方が間違いなくいいと思 う。前の会長の時も何かポイントがいたりしないのだろうか といった話をしたことは覚えている。
事務局	エコふぁみとエコ事業所の両方登録も可能。
原委員	今聞く限りではメリットの方が多いい気がする。登録してみて、 デメリットがあったら伝える。

占部会長	エコショップ認定事業所には両方案内するのか。
事務局	その予定。 エコ事業所に関しては、今エコショップで行っているのと同じような報告になるので、事務的には変わらないと思う。それほどデメリットはないと考えている。
鈴木副会長	私の考えに一番近いのは木村さんの意見。移行すること自体は事業者にとっても市民にとってもデメリットはないと思う。ただ、エコふぁみに移行することで事務事業がどの程度増減するのかが気になる。移行した後にうみがめ課でどう管理していくのかを市民や事業所に伝えることが大事だと思う。 どのように情報発信していくのかというところで、様々な登録制度を、環境という切り口でまとめて事業所に案内することもあるかもしれないし、その辺の情報をもう少し調べた方がいい。
原委員	メリットは教えてもらったので、デメリットを知りたい。移行することで予算も削られることもあると思うが、市の財政を考えると、それも一つの手かなと思う。
事務局	あまりデメリットは見当たらない。一つ気になるところは、今エコふぁみ協賛店にコンビニの登録がないということ。エコショップ認定事業所の中にはコンビニもあるので、その移行に力を注がないといけない。県もなぜコンビニの登録がないのかよくわかっていないようだ。
木村委員	自分もエコふぁみに登録したことがあるが、その時よりは使いやすくなった印象がある。県民の目線で言うと、いいものになるのではないかと思うので、これを福岡県内の自治体として進めていくのは悪いことではないと思う。今までエコショップとしてやってきた部分にとどまるのか、もしくは別の施策に拡大解釈するような感じになるのか等が見えてくるといいと思う。
鈴木副会長	今までのエコショップも、これから移行を検討しているエコふぁみやエコ事業所についても、脱炭素の取組に気軽に一步踏み出すための動機付けのものだと思っている。一方で、今後さらに脱炭素の取組の規模が大きくなり、CO2削減量の数値化等さらに深まった活動をしていかなければならない事業者もでてくると思う。それらの事業者に対して市がどうサポートしていくのかが重要になってくるのではないかと思う。
事務局	エコ事業所については病院など、今までエコショップへの登録がなかったようなところにアプローチしていけると思う。そこ

に市がどうやって関わりながら広めていけるかどうかが重要になってくる。

鈴木副会長 どのくらい CO2 削減をしているのか数値化していかなければならないステージにいる事業者が福津市にいれば、そのような事業者のサポートも検討していかなければならない。

事務局 それが進んでいるのが古賀市。古賀市は事業所が多いので住宅よりも企業に対して脱炭素を進めている。福津市は住宅地が多いので住民へのアプローチがメインになると思う。事業所へのサポートは宗像古賀新宮など近隣で一緒にしていくという話もあっている。

占部会長 方向的にはこの方向でよいか。

事務局 デメリットはあまり感じていない。何らかの形でサポートもしていかなければならないと思う。

原委員 脱炭素の計画に注力してもらうのなら、何もエコショップ事業にとどまることはないのかなと思う。

鈴木副会長 効率的に成果が出せる方法があればそれが一番いいと思う。

占部会長 全体的にその方向性に賛成。

事務局 今後のスケジュール感としては3月にエコショップの登録事業者に報告して、6月か7月に1回目の委員会を早めに開催する可能性がある。10月ごろに2回目を開催して、市長に答申書を渡すというスケジュールで行きたいと思う。その間に事業者へアクションする必要がある。
最初のタイミングとかで商工会に話に行かなければならないと思うので、どのような流れにするのか等相談させてもらいたい。

原委員 今日欠席の委員より反対の意見が出た場合どうするのか。

事務局 また皆さんに意見を伺う予定。

令和6年度第2回福津市エコショップ推進委員会終了